

佛心

二〇二二年五月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会

私は読経する前に、自分の声の音や高さを確認したいので、出張の際も必ずチューナーを持っていくようにしています。

トロント着任前、先輩から「仏法伝道は場所を選ばず」と言われましたが、まさか空港で伝道活動をするとは想像もしていませんでした。

さて、そのカップルには、仏教の根本的な教えである三宝印や四諦八正道について話しました。私も夢中になって仏教とはそもそもなんぞや？といった話をしていると、学生時代にある先生から習ったことを思い出しました。それは「仏教」という言葉についてです。

「仏教」には3つの意味合いがあります。ひとつは「仏之教」。文字通り、仏様の教えです。ふたつ目は「仏即教」。仏様とは教えであり、教えそれ仏なり、ということですので。そして、みつつ目が「成仏教」。仏様になる教えということですので。

世界には様々な仏教の宗派があります。その各宗派には、それぞれ異なった修行方法や仏教理念があります。しかし、どの宗派にも共通して言えることは、解脱すること、言い換えれば仏になることが最大の目的ということなのです。



宮商和して

自然なり

この2ヶ月間は、コロナによる渡航規制の緩和もあり、他州への出張が多くなりました。3月はモントリオール、4月はウイニペグを訪れたのですが、しばらく訪問できていなかったため、久しぶりにご門徒方と一緒に念仏を申せたのは、大変ありがたい縁でした。

本日は、その出張の際の空港で起きたことから書きはじめたいと思います。久しぶり飛行機でしたが、何度も利用した空港だったので特に緊張もせずにセキュリティゲートを通しようとしていました。しかし、荷物を取ろうとした際、職員から止められて「カバンを開けさせてもらおう」と言われました。「これはなんだ？」と言われ出てきたのはYAMAHAのチューナーでした。

そのチューナーに続いて目にとめられたのは法衣でした。「あなたは何をしている人なんだ？」と目を細められて尋ねられました。「お坊さんです」と答え、読経のためにチューナーが必要であることも説明しました。

するとそれを聞いた職員は「Oh, トロントで僧侶を見たのは初めてだ。このチューナーはどうやって使うんだい？」と笑顔になりました。そこで正信偈の一部を称え、チューナーが動いていることを示しましたが、さすがに他の乗客の目もあり、すこし恥ずかしかったです……。

セキュリティゲートで余計な体力を使ってしまったので、ゆっくり読書でもしようとして席につきました。すると隣に座っていたカップルから「日本から来たの？」と尋ねられました。どうやら日本語で書かれた本を見て興味が沸いたようです。「カナダには何をしに来たの？」と先ほどと似たような質問がきたので、「お坊さんです」と答えると案の定、本を読む

その目的のためには、自分の思索や実践だけを頼りとすることなく、さとりを開くための道しるべが必要となります。その道しるべが、お釈迦様の言葉である経典です。

浄土真宗では、浄土三部経(仏説無量寿経・仏説観無量寿経・阿弥陀経)と呼ばれる経典をよりどころとしています。これらには、阿弥陀如来の浄土がどのようなところかが書かれている箇所があります。その箇所に関して親鸞聖人は、和讃に

清風宝樹をふくときは

いつつの音声いだしつつ

宮商和して自然なり

清浄薫を礼すべし

と書かれました。

東洋音楽には、宮(キウウ)、商(シヨウ)、角(カク)、徴(チ)、羽(ウ)、という五音があります。そのうち「宮」と「商」の二種類は、調和の取れない音、つまりは不協和音となります。

しかし、和讃には「自然(ジネン)なり」とあり、これは「調和しない音が浄土ではごく自然に交わり合いなんとも美しい音になる」ということです。

最近この和讃を読み返したとき、この宮と商の音は、煩惱をいだけ私たち衆生のことをさしているのだと思いました。

私たちは、常に自分が正しいと思い込み、自身の正義を打ち出し、相反するものを悪として仕立て上げてしまっています。しかし、本来は宮が悪いわけでも、商が悪いわけでもない。しかし、それらを一緒にすると、調和が取れず争いが絶えなくなってしまう。

阿弥陀如来はこのような状況を悲しまれ、宮と商とが自然(じねん)に調和する浄土をひらくことを誓われたのです。その誓願とおはたらきを知ったとき、私たちはあらゆるものを今までのような基準ではかかってきたのか考えさせられます。

真宗では、仏教を学べば学ぶほど、聴聞をかさねるほど、私たちが煩惱具足の凡夫であると知らされます。それと同時に、阿弥陀如来の本願力によってそのまま救われる私たち衆生とは一体何なのかも考えさせられます。「宮商和して自然なり」。たったの9文字ではあるかもしれませんが、この世では調和の取れない宮と商を他人事ではなく、自分事におきかえて考えなおしてみたいものです。

トロント仏教会 駐在開教使

大内祐真

「日本語法座」



祥月法要 5月1日(日曜日)

時間：午後1時～

祥月法要とは、祥月命日(故人が往生された月のご命日)をご縁として仏法に会い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

降誕会 5月15日(日曜日)

時間：午前11時～(日英両語)

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の誕生(承安3-1173-年5月21日)のお祝いする仏事として降誕会の法要をおつとめします。